JAFIA15 周年を迎えて

岡山大学理学部　本 水　昌 二
(JAFIA 委員長)

フローインジェクシヨン分析研究懇談会は，本年創立 15 周年を迎えることができ，まことに御同慶の至りである． 1975 年の Ruzicka，Hansen の論文発表を契機に，逸早くその有用性に着目された九州大学の石橋，与座，喜納先生らにより我が国でも本格的に研究が開始され，この分析手法はフローインジェクション分析法(略して FIA)と言われるようになった．更に 1981 年，Ruzicka，Hansen の著 "Flow Injection Analysis"，1983 年にその訳書(石橋，与座訳)の出版により我が国の FIA 研究者は一気に増大した．この時期 FIA の将来的発展を予期された石橋先生らは，早速 FIA 研究会創設に向けて準備を開始され，FIA に限った世界で初めての研究会が 1984 年，約 200 名の会員でスタートした．これが本研究懇談会の前身"フローインジェクション分析研究会"(FIA 研究会)である．

FIA 研究会発足に当たっては，石橋先生には壮大な構想があったようである．その一つは，研究会から学会組織への発展であり，また国際化である．このため，研究会の顔とも言える会誌の発行は，FIA 情報誌と論文誌の二種類でスタートされた．年 2 回の講演会開催も規約に盛り込まれ，これからも石橋先生を始め諸先達の意気込みがひしひしと伝わってくる．予期に違わず，FIA の普及は目覚ましく，約 20 年の間に研究報告数は 8000 件に到達した．そのうち，我が国研究者による報告は 25~30%になっており，これには FIA 研究会･懇談会の諸活動の貢献が高く評価されてもよいであろう．

国際化の一環として，1991 年の Flow Analysis V の日本開催が研究会で決定され，Las Vegas(1988 年 Flow Analysis IV) へは石橋，桐栄，鈴木，出口，和田諸先生をはじめ多数参加した．石橋先生が日本招致のプレゼンテイションをされ，満場一致で認められたことが昨日のように思い出される．この開催決定に伴い，FIA 研究会は FIA 研究懇談会に衣替えした．熊本工大での Flow Analysis V 開催は，石橋先生を中心に諸準備万端整えられ，海外からも多数の参加者を得て大成功であったが，この会期中の石橋先生の急逝は，我が国のみならず外国の研究者にも大変なショックであった．まさに FIA の発展にすべてを捧げられた石橋先生のご冥福をお祈りしたい．その後九州大学の大倉先生はじめ多く方々のご尽力により会も早急に立ち直り，諸活動を精力的に進めることができ，今日の 15 周年を迎えることができたことを会員諸氏と祝福すると共に，今後の更なる発展を期待したい．

FIA 研究会発足時の壮大な計画は未だ途半ば，責任の重大さを感じている．次代を担う若い会員諸氏に今後の発展を託したいと思うが，ICFIA との Joint Meeting，講演会の開催，会誌の充実など会員諸氏のご協力で新しい展望は開けている．15 周年を迎え，FIA 各賞も制定された．更に J.FIA の 15 周年記念特集号として，技術論文集発行も準備されている．グローバルな視点からも，分析の自動化･高度化の要求は日増しに増大し，FIA のさまざまな公定法への採用計画が急ピッチで進んでいる．まさに FIA の出番到来である．本 FIA 研究懇談会が，創造立国を旨とする我が国の今後の発展に大いに貢献できることを確信してやまない．会員諸氏のご協力，ご支援をお願いしたい．